

多文化共生事業事例集

年度

R5

団体名

神戸市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

事業費総額 2,813 千円

事業名

外国にルーツを持つ子供の未来共育プロジェクト事業

概要

外国にルーツを持つ子供が、保護者より日本語を習得している場合、学校園からの書類の作成や翻訳をするなど、ヤングケアラーとなるケースがある。このような負担を軽減し、学業に注力できるよう、子供とその保護者を対象にした書類作成の相談及びサポート等を行った。また、就学前のプレスクールを実施し、小学校入学初期に必要な日本語や学校生活適応を支援した。保護者にはプレスクールや小学校説明会を通じて、外国にルーツを持つ子供の状況や本事業の周知も行った。

事業のポイント

◇上述のような負担を軽減し、放課後等に相談及びサポート等ができる場を提供し、学校園とのつながりをスムーズにすること、また、就学前のプレスクールを実施し、子供の小学校入学初期に必要な日本語や学校生活への適応を支援することを目的とする。

事業の背景・目的

学校、幼稚園、保育園等(以下、学校等)からは多くの書類が子供に手渡され、保護者が作成したのち学校等へ提出するが、外国にルーツを持つ子供が親より日本語を習得している場合、親の代わりに難しい用語が並ぶ書類の作成や翻訳をするなど、ヤングケアラーとなる子供も見受けられる。外国ルーツの青年たち1世2世にヒアリングすると、そのほとんどが書類の内容を十分に理解できないまま作成し、心的負担を感じている現状がある。

事業の詳細

(1) 書類作成の相談及びサポートを中心とした総合的な共育環境ケア

実施目的：学校から配布される書類等の要約や書類作成を補助

対象：外国ルーツの小中学生とその保護者

日時：火金・16:00～18:30

水木・16:00～21:00 土・10:00～12:00

対応言語：中国語 ベトナム語 英語 やさしいにほん語

対応時間：火金・14:00～18:30

水木・14:00～21:00 土・10:00～12:00

対応方法：オンライン相談(LINE、FB) 電話相談(対面)

(2) 就学前のプレスクール

実施目的：日本の小学校について、実際に体験学習を通して子どもや保護者の不安感を取り除く。

対象：外国にルーツを持つ小学校入学前の子どもとその保護者

開設：神戸市内 2カ所

時期：11月～2月(神視保育園)

1月～2月(KFC学習教室)

内容：就学前の子供を対象に平仮名や10までの数字、学校で使用する用語の学習機会の提供

(3) 広報及び案内配布等

対象：市内の小中学校 時期：4月～

案内方法：①チラシ(学校から外国にルーツを持つ家庭へ配布)

②学校の通信アプリによる保護者への配信

③小学校に関する説明会における周知 他



プレスクール



プレスクールと並行して行った
保護者向け小学校説明会

事業実施における工夫点・事業の成果等

○書類作成の相談及びサポートを中心とした総合的な
共育環境ケア

相談方法：オンライン相談(LINE、FB)・電話相談(対面)

相談件数：73件

対応言語：中国語・ベトナム語・英語・やさしい日本語・
ロシア語・ウクライナ語・モンゴル語・インドネシア語

相談内容

- ・学校園からの書類(プールについて、教材「はぐるま」
購入について、給食費の銀行引き落としについて等)
- ・保護者が学校園に伝えたい困りごと
- ・行政からの書類
- ・その他の教育相談等(日本語学習、プレスクール、塾
や私立中学校への進学、高校入試、引きこもり、いじ
めや子どもの孤立、年齢超過生徒の中学入学等)

その他

①給食費の銀行引き落としについての指南等、かなりの
時間を要するものもあった。

②保護者と学校園からの相談依頼が多く、子どもからの
依頼は少数であった。

③子どもからは高校入試や高校の単位の取り方につい
ての相談等があった。

④事業開始後は相談者からの LINE 登録が順調に進ん
だが、開始 1 か月弱で全登録データが削除されアカウ
ントを再設定しなければならないトラブルがあった。ア
カウント再設定後は少しずつ利用が増えていった。

○就学前のプレスクール

実施目的：新たに始まる小学校生活や学校に対する負担軽
減するための支援

対象：外国にルーツを持つ小学校入学前の子どもと保護者

時期：①11月～2月(神視保育園)/②1月～2月(KFC学
習教室)

内容：ひらがな、10までの数字、学校で使用する用語等

参加者：①：5名(ベトナム1・韓国1・日本3)/②：13
名(中国3・ベトナム2・ウクライナ2・ミャンマー2・韓
国1南アフリカ1・アルジェリア1・インドネシア1)

その他

- ・発達に課題のある幼児が複数おり、学習の進度がゆっく
りであったが、少しずつ取り組めるようになった。
- ・渡日間もない子どもが多かったが、少しずつ指示がわか
るようになり、学校と同じような雰囲気の中で、楽しそう
に授業に参加できた。



保育園内のプレスクール

今後の課題・将来に向けての展望等

「書類作成の相談及びサポートを中心とした総合的
な共育環境ケア」は、外国ルーツの小中学生とその保護
者を対象とした事業であったが、実際は保護者や学校
園からの相談が多かった。学校園では紹介しにくい、塾
や私立中学校への進学に関する教育相談もあった。

また、学校園からの書類に関しては、手続きの方法や
購入の必要性等に関して、外国人の保護者にとっては
分かりづらく難しいものも多い。「やさしいにほんご」
を意識して書類を作成する等、引き続き表記の改善に
取り組んでいく。

来年度は、今年度以上に
外国ルーツの小中学生と
その保護者の利用が増える
よう、効果的な周知方法等
を検討していきたい。

書類作成の相談及び
サポートのベトナム語版チラシ



事業担当者のふりかえり

- ・コロナ禍が明け、新渡日の家族が神戸市でも年々増加する中、様々な不安を抱える家庭への生活支援や学
習が継続しにくい現状を改善するため学習支援の場の充実化を図り、ヤングケアラーとなっている子どもの
支援など、関係する方々と協力しながら、きめ細やかな支援に取り組むことができた。
- ・OECDによると、就学前教育を受けていた子どもは15歳時点での進学率が高い傾向にあるということか
ら、就学前の支援にさらに力を入れていきたい。